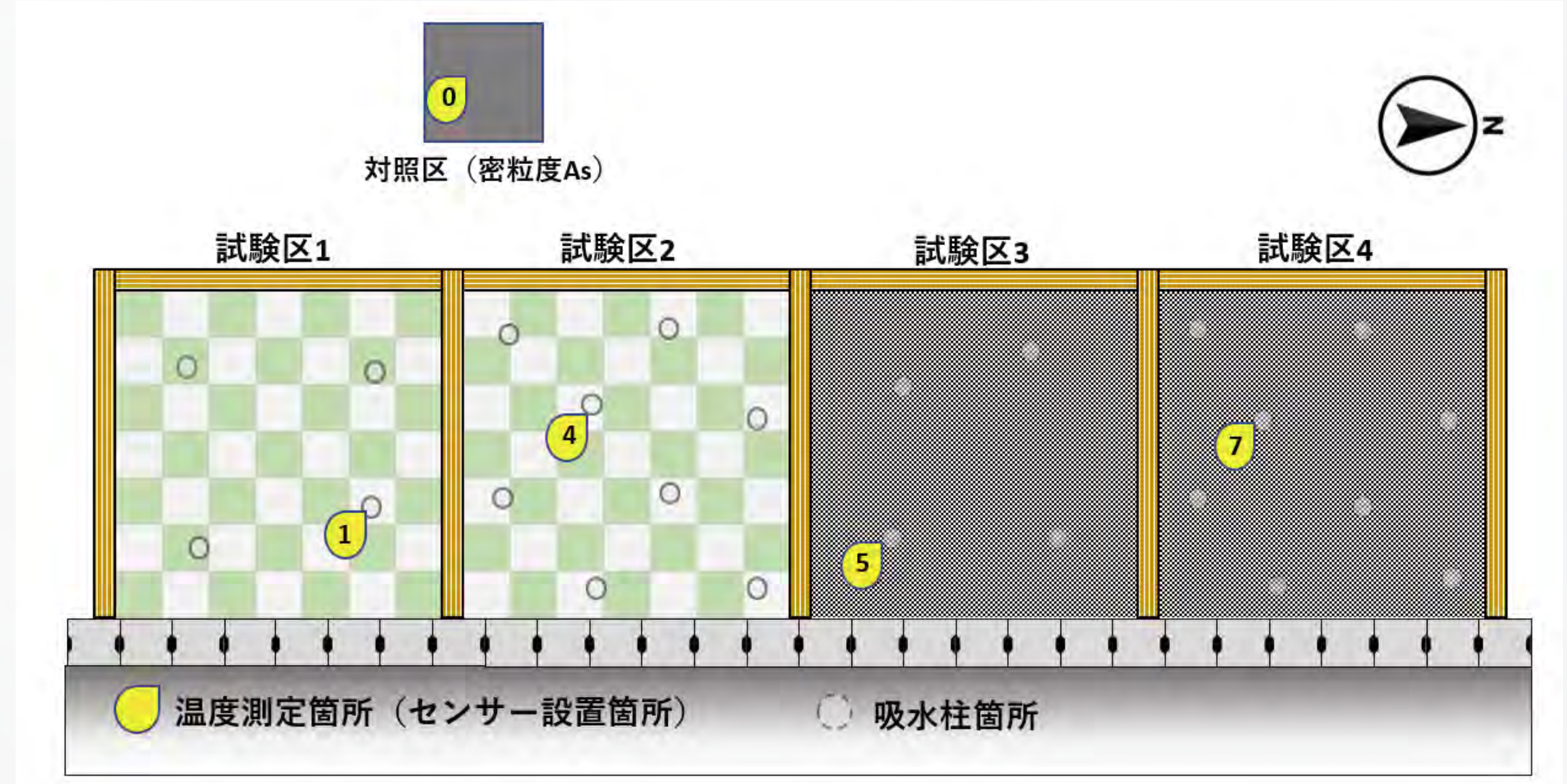


地下水を利用した FWG・透保水性舗装の 温度測定結果

透保水性舗装は、路盤内に保水されている間は、路面の温度上昇を抑制する効果があるが、水がなくなると効果はみられなくなる。このため、地中の水位が高く、保水した状態を長期間作り出せる可能性がある、SAGA サンライズパーク（佐賀市）の一面において、2022年6月9日から10月4日までの118日間、FWG・透保水性舗装工法の4つの試験区と対照区との温度差を測定した。

FWG・透保水性舗装工法の試験区

	試験区 1	試験区 2	試験区 3	試験区 4	対照区
舗装種類	透保水性インターロッキングブロック		透水性アスファルト		常温アスファルト混合物
吸水柱 (/m ²)	1	2	1	2	—



表面温度の比較

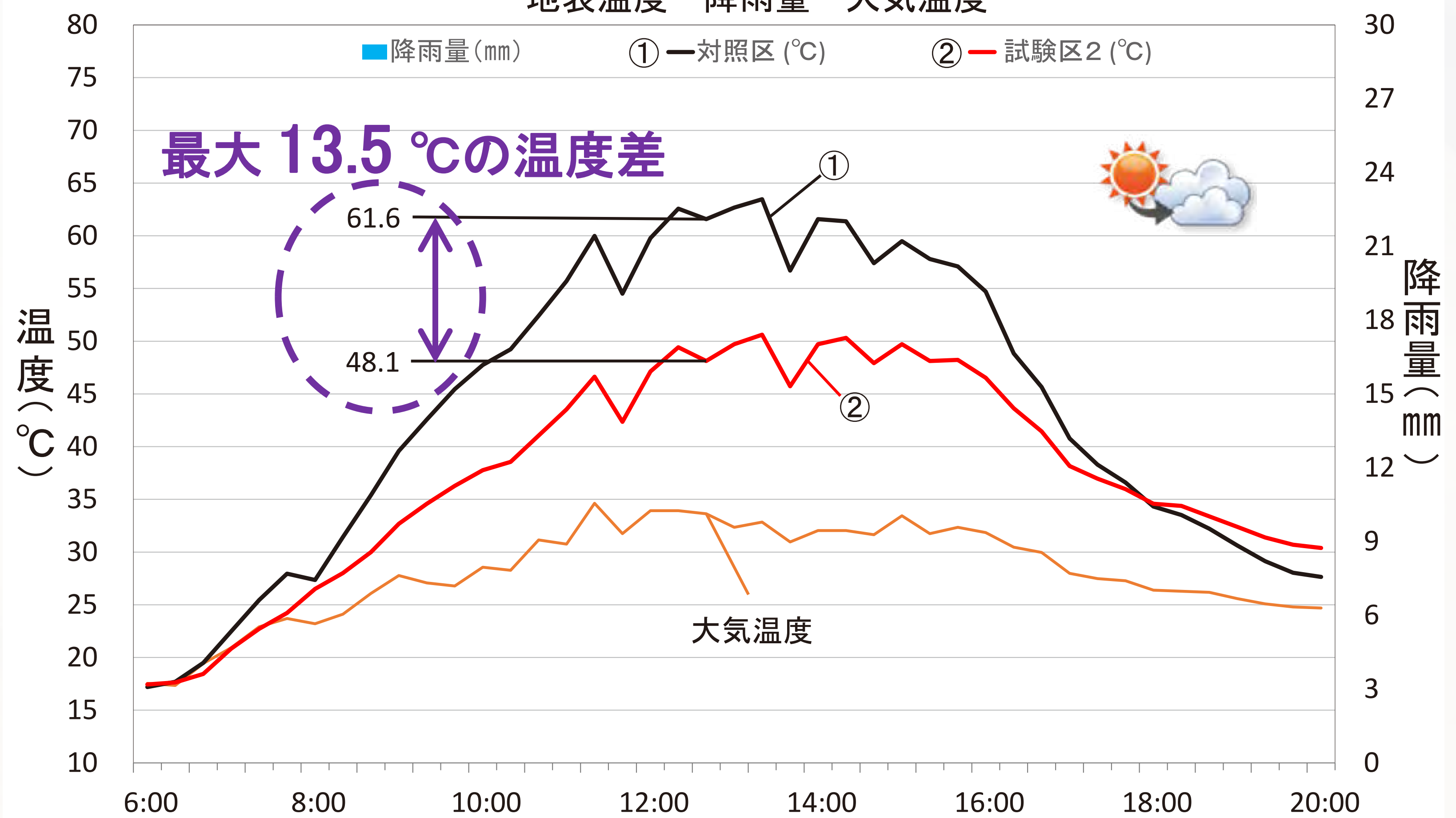
試験区 2（透保水 ILB・吸水柱 2 本 /m²）では、対照区との間で6月9日に最大 13.5℃。10℃以上の温度差は計 25 日、これらを除いて最大 5℃以上の日は合計 88 日で、74.6%。

表 2 各試験区における最大 5℃、10℃以上の差が確認された日数と最大温度差

試験区	5℃ ≤ < 10℃	10℃ ≤	合計 (全体に占める割合)	最大の温度差
1	68 日	3 日	71 日 (60.2%)	11.4℃
2	63 日	25 日	88 日 (74.6%)	13.5℃
3	45 日	1 日	46 日 (39.0%)	10.0℃
4	65 日	1 日	66 日 (55.9%)	10.4℃

※温度上昇を抑制する効果は、透保水 ILBの方が透水性 As よりも、また吸水柱 2 本区の方が吸水柱 1 本区よりも、それぞれ発現していることが確認された。

SAGA サンライズパーク 温度測定 2022/6/9
地表温度・降雨量・大気温度



サーモグラフによる比較

